

『服薬アドヒアランス向上のために』

はじめまして。ご縁ありまして3月より町立病院で勤務している薬剤師の吉田と申します。私は、高校まで天塩町雄信内で過ごし、北海道医療大学へ進学。免許取得後は札幌にて病院勤務を3年、調剤薬局勤務を1年経験し、天塩町立病院に赴任いたしました。高校のときのインターンシップで薬剤師の仕事を経験させていただいたことがあり、実際に薬剤師となつて町立病院の薬局で働かせてもらっていることがとても不思議



な感じがします。子どもの頃から、私のことを知っている方などにお声掛けいただくこともあり、地元の温かさを身に染みて実感しております。少しでも地元の方々のお役に立つことができればと思っておりますので、お薬のことでもわからないことや気になることがありましたら気軽ににご相談ください。

皆さんは、お薬が処方となつたら、医師の指示どおりにきちんと服用できていますか？症状が良くなったから、または薬の効果を実感できないからと自己中断していませんか？

お薬は、医師が患者さんから得た情報や採血・レントゲンといった検査結果などを総合的に評価し、必要と判断された方へ処方されています。

自覚症状がなくても、検査結果ではお薬が必要とされる場合があります。

例えば鉄欠乏性貧血です。酸素を運ぶヘモグロビンを作るために鉄分を消費されますが、その鉄分が何らかの理由で不足すると、それを補うために、体内

に存在している貯蔵鉄を消費していきます。体内の貯蔵鉄がすべて消費されてしまうと血液中の鉄を消費しますが、それも無くなってしまうことでヘモグロビンが作れずに酸欠状態となり、息切れや疲れやすいなどの貧血症状が起きま

す。貧血の治療薬として鉄剤がよく処方となりますが、まずは血液の中の鉄から補われ、その次に貯蔵鉄へ補われます。血液中の鉄分が補われることで、貧血症状は治まっていきますが、貯蔵鉄まで完全に補われるまでには、半年以上かかると言われております。そのため、貧血症状がなくても、血液検査で貯蔵鉄が正常化するまで鉄剤の服用を継続する必要があります。

このように自覚症状がなくても治療が必要な場合がありますので、症状が良くなったとしても医師の指示なくお薬を自己中断する



ことは控えてください。

しかし、皆さんがご存じのようにお薬を服用することによって起きる副作用もありません。服用を続けることで重大な副作用に繋がることもありませんので、お薬の服用後に体調に変化がないかを必ずチェックし、気になる症状が現れた場合には、すぐに医療機関に相談しましょう。

アドヒアランス（患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること）向上のためには、患者さんそれぞれが自分の病気についての理解を深めることが重要です。また、ライフスタイルや嗜好品等によっては、お薬の服用方法を変えなければならぬ場合がありますので注意が必要です。

正しく服用していただき、薬剤師として、お薬の効果を最大限発揮させるお手伝いをさせていただきますので、これからどうぞよろしくお願ひします。

（文責 病院薬剤師吉田 涼）

